理科②

「文字」から「図」、そして「自分の言葉」へ
～中学校理科における多面的表現力を育むアプローチ～

新発田市立猿橋中学校
髙松　謙太朗（H28 年度）

本実践は現３年生に対して、担当した学級で３年間継続して行ったものである。１年次から教科担任として関わっており、実験やペアワークなど、複数人での活動では頑張れるが、個人作業になると困ってしまって活動が滞る生徒が大半である。しかし、学校評価などのアンケートでは、「内容を覚えていないからわからない」「わからないから頑張れない」といった記述があった。

そこで、クラスの仲間たちと協働的に学習ができる集団を目指し、言語活動の充実を図るために数々の手立てを講じてきた。そのためにゴールとして、自分の学んだことを他者に説明することを主としてきた。その結果、生徒同士で教え合う風土が自然と生まれ、自分なりに相手にわかりやすく説明をしようと工夫する生徒が増えてきた。